



グローバルゼーションと健康

- グローバリゼーションの負の側面 -

Con派

下田陽樹
田川哲也

大園裕貴
中塚雄一郎

はじめに

- 「共通理解」の確認

- グローバリゼーションとは -



モノ、ヒト、情報などが自分
たちの周りに出入りすること
(受動、能動の両面あり)

具体的な切り口

- グローバリゼーションと食
- グローバリゼーションと病
- グローバリゼーションと心
- グローバリゼーションと薬

グローバルゼーションと食⁽¹⁾ (1)

—グローバルゼーションが食にもたらす影響—

■ これまで

- 世界の人々は各々独自の食生活を営む
 - 各地域の資源の制約
 - 地域の食生活は多くの場合、健康維持にはたらく
- 「不適切」に見える環境下でも生きていくことを可能にしてきた

グローバリゼーションと食(2)

■現在

➤企業がグローバリゼーションの主役

→食の領域でも世界的な経済至上主義化

●具体例：遺伝子組み換え食品

●途上国での栽培を容易にすることを目的？

→開発元から種子を毎年購入しなければならない

●作物の種としての多様性の喪失

➤米国の生活レベル保障としてのグローバリゼーション

→国家間の貧富の差拡大

グローバルゼーションと食(3)

■「グローバルゼーションと食」の観点から言えること

- 現代は国（地域）によっては食糧にあふれた豊かな時代→健康？
- 実際は「無菌室」で育てられた状態
 - 実質的な体力、免疫力に劣る
 - 外部環境の変動に対処できない弱い存在？

グローバル化と病(1)

■ これまで

- 先進国は生活習慣病中心
- 開発途上国は感染症中心

■ 今日→「疫学転換」

- 開発途上国においても(感染症だけでなく)慢性疾患が問題⁽²⁾
 - 具体例(1)糖尿病⁽³⁾
 - 具体例(2)肥満⁽⁴⁾
 - 具体例(3)心疾患⁽⁵⁾

グローバル化と病(2)

■考えられる要因

- 食事内容の変化 - 近代化（西洋化）
- 生活様式の変化-機械化
- 遺伝的背景
 - 「糖尿病 - 倭約遺伝子仮説」
 - 「食物を効率よく貯蔵する体質」

グローバル化と病(3)

- 「グローバル化と病」の観点から言えること
 - 同じ「ヒト」でも詳細は多様
 - 今日の変化は生物的適応で対応不能
 - グローバル化が不健康を招いている

グローバル化と心(1)

■ 今日

- 人々の交流、情報交換活発に
- 異なる文化、価値観の下に住む
→ 精神的衝突、葛藤⁽⁶⁾
- 外国人労働者移入
→ 精神科に訪れる在日外国人増⁽⁷⁾

グローバル化と心(2)

- 問題点-在日外国人を例に- (7)
 - 異文化、言語の違いによる孤立
 - 職場におけるトラブル
 - 失業や経済的な悩み
 - 家族の病気に対する心配
 - 母国に残してきた家族への心配

グローバルゼーションと心(3)

- 「グローバルゼーションと心」の観点から言えること
 - メンタルヘルスは価値観、文化と関連
 - グローバル化で広まっている価値観が必ずしも適当と限らない
 - 価値観、文化の違いを考慮した対応

グローバル化と薬⁽⁸⁾ (I)

■ 背景

● 経済のグローバル化→市場メカニズムの重視

- 小さな政府、規制緩和、自由化



● 独占を招く→世界で貧富の差拡大

- 医薬品市場；米、日、独、仏、英で医薬品生産額の3分の2を占める

グローバル化と薬(2)

■ 問題点

- 優れた治療薬開発されるも高価
→ 貧しい途上国の患者購入できず
- 先進国と途上国のニーズ＝疾病構造の違い→必要な薬がない
- ジェネリック薬と強制実施権

(注) 強制実施権：特許権者の許諾を得ることができなかった場合に、特許権者の許諾を得ずに特許物を使用する権利

グローバル化と薬(3)

- 「グローバル化と薬」の観点から言えること
 - 薬剤開発は経済と密接に関連
 - 経済において市場メカニズム重視
- 薬剤開発にも影響

総合

- 入ってくるモノ、情報が受入れ側に必ずしも適していない
- しかし否応なしに入ってくる
- 変化のしかた（速度）も適応能力を超えている場合あり

結論

グローバルゼーションは個々のあり方（生活習慣・様式、価値観、文化）を考慮せず、画一的なあり方を強いる。このことが強要される人々の身体的・精神的健康に悪影響を及ぼしている。

これは健康に関わる医療・保健が、グローバルゼーションの進む経済と深く関わっているためである。

参考文献一覧(1)

- (1)丸井英二「グローバル化と食」公衆衛生, Vol.69, No.10, 2005: 821-24
- (2)Paul Z. Zimmet and K. George M.M. Alberti: WHO Report Introduction: Globalization and the Non-communicable Disease Epidemic. Obesity Vol.14 No.1 2006:1-3
- (3)ヘルスデージャパン「世界規模で深刻化する糖尿病の蔓延」2007.4.19掲載
http://www.healthdayjapan.com/index.php?option=com_content&task=view&id=160
- (4) Susan Cassels: Overweight in the Pacific: links between foreign dependence, global food trade, and obesity in the Federated States of Micronesia.
Globalization and Health 2006 <http://www.globalizationandhealth.com/content/2/1/10>

参考文献一覧(2)

- (5) Elsayed Z. Soliman, Hodge Juma: Cardiac Disease Patterns in Northern Malawi: Epidemiologic Transition Perspective. J Epidemiol 2008; 18(5) 204-08
- (6) 大西守「在外日本人の精神保健」臨床精神医学 28 (5), 1999; 499-505
- (7) 阿部裕「精神科クリニックの多文化外来にみる 在日外国人の精神保健の問題と対策」保健師ジャーナル Vol.62 No.12 2006; 1004-1008
- (8) 白岩健、川島今日子、津谷喜一郎「グローバリゼーションと薬 薬におけるもうひとつの『開発』」公衆衛生 Vol.69 No.11 2005; 908-13